

【主な事業内容】

本事業を推進するに当たり、主として次の業務を行います。

1 「にいがた学びチャレンジ」※の推進

※「にいがた学びチャレンジ」とは
「対話のある学び」の実現により「児童生徒が主役の授業づくり」を推進する取組

(1) 「にいがた学びチャレンジ」研修ポータルサイトの運用

- ① 思考力、判断力、表現力等の育成を意図した教材を配信する。
- ② 教育支援システム（Tea Room）を活用し、各研究会の広報、指導案等の研究実践を紹介する。

(2) 配信内容及び方法

① 配信する教材・資料

ア 問題の対象学年、教科は、次のとおりとする。

- ・小学校4年～6年（国語、算数） ・中学校1年～3年（国語、数学、英語）

イ 思考力、判断力、表現力等の育成を意図した教材とし、学習指導要領の趣旨や全国学力・学習状況調査を参考にした内容とすることで、育成すべき資質・能力の育成に努める。

ウ 教材の書式については、次のとおりとする。

- ・Word形式及びPDF形式の2種類用意
- ・A4判2ページ程度の学習シートを2種類程度作成
- ・発問例を2つ程度作成

エ 基本的な流れは次のとおりとする。

- ・「にいがた学びチャレンジ教材」（以下「まなチャレ教材」）をダウンロードする。（県内市町村共同利用の統合型校務支援システム、メール、Tea Room、「にいがた学びチャレンジ」研修ポータルサイトのいずれか）
- ・「まなチャレ教材」を活用して、どのように授業を展開していくか教材研究及び単元構想をし、授業で用いる学習シートを選択する。（必要に応じて編集可）
- ・選択・編集した教材をもとに具体的に授業づくりをする。
- ・自分の考えを深める児童生徒の話合いの場の設定をする。
- ・児童生徒が活動について振り返る場を設定する。

オ 配信回数は、5月、7月、10月、11月、1月の年5回とする。ただし、中学3年の第4・5回は配信しない。

② 補充・発展問題

- ・問題の利用については各学校に一任する。
- ・問題は通年利用可能とする。

③ 過去問題

- ・課題に応じた授業づくりに資することができるように、過去の「問題」「実施時の正答率を入れた解答」及び「解説・サポート問題」を整理する。
- ・各学校が過去問題等を有効活用できるようにする。

2 学習支援動画の提供

(1) 学習支援動画の内容

- ・教科書に基づく5分～10分程度の解説映像

＜小学校全学年＞ 国語、算数、理科、社会

＜中学校全学年＞ 国語、数学、理科、社会、英語

※国語は教材ベースで作成、それ以外の教科は内容ベースで作成

(2) 学習支援動画の配信方法

①YouTubeで限定公開

②動画のURLは、教育支援システム（Tea Room）、2次元コードで提供

- ### (3)
- 令和7年3月末現在、2,203本の学習支援動画を提供、令和6年4月1日から令和7年度2月末現在の総視聴回数11,609回

3 市町村支援事業

市町村教育委員会と連携して、各学校の学力向上への取組を指導・支援する。

(1) 学力向上パートナー事業

- ・希望する市町村に、教育事務所の指導主事等を派遣する。
- ・研修会・講演会等への指導・支援のほか、市町村教育委員会と共に管内各学校への継続的な訪問指導・支援をする。
- ・支援対象は、すべての教科とする。また、学力全般、ICTの活用に関するものでも可とする。

(2) 学力向上（中学校・数学）対策プロジェクト

- ・学力向上対策特任指導主事が、当該市町村における中学校数学の授業研究を中核とした研修を継続することを通して、連携市町村の取組を支援する。

(3) 「にいがた学びチャレンジ」や「まなチャレ教材」の活用に関する研修

- ・学力向上推進チームが、「にいがた学びチャレンジ」の説明や「まなチャレ教材」の効果的な活用について、小・中学校の研究主任等に対するオンデマンドによる研修を4～6月に実施する。
- ・「にいがた学びチャレンジ」の取組や授業づくりに関する情報交換、「まなチャレ教材」の活用等について、オンラインワークショップ「学びUP」を4回程度実施する。

4 広報活動

- ### (1)
- 学力向上サポートたよりを発行する。（教育支援システム（Tea Room）、「にいがた学びチャレンジ」研修ポータルサイト等で各校への周知を図る）

- ### (2)
- 学力向上に向けた「にいがた学びチャレンジ」の取組や「まなチャレ教材」の活用事例・指導事例を収集、周知する。

- ### (3)
- 教育支援システム（Tea Room）を活用し、学力向上に関する情報発信を行う。